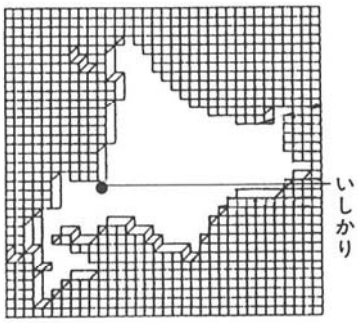
連載



あのマチ このムラ・地域おこし活躍中 No.8

石狩町の事例

都市近郊型農業の確立を目指す

大雪山系に源を持つ石狩川が、およそ二六〇キロの旅の終わりに石狩平野を通り、日本海に注ぐところに石狩町は位置しています。札幌市の北に隣接し石狩湾を臨む水に恵まれた町です。

◆地域の概要

石狩町の総面積は一二〇・一四㎢。湾岸一帯は石狩湾に面し、後背には厚田村、当別町、札幌市、小樽市が接しています。地形は大部分が平野ですが北東部の一部に丘陵地があります。

気候は温暖で四季の変化に富み、春から夏・秋にかけては凌ぎやすい爽やかな気候になりますが、冬は北西風が強く吹き沿岸波浪も高くなります。

耕地は、石狩川から発達した平坦な沖積地帯が広がります。一部、日本海沿いに砂丘地帯が、下流域には泥炭地帯が分布しています。

◆石狩町農業の変遷

豊かな石狩川とその支流、石狩川河口地区は山河の幸に恵まれ、数千年の昔から人跡が多かったことはよく知られるところです。特に大群をなして登る鮭の好漁場として、慶長年間（一五九六年）に松前藩の石狩場所が区画設定された頃から和人の来訪があったと謂われています。

明治初期には、東北地方など各県から開拓者の移住がありましたが、砂地が多いことや石狩川の度重なる洪水被害などで、農家戸数の増加は余りみられませんでした。

明治中期になり、鮭漁とその加工に携わる人口が増加し、農業でも集団移住者の増加と、技術の改良による経営の安定化がみられるようになりました。

戦後は、農地改革による自作農の増加、全町におよぶ造田によって農業経営は安定し、品種改良・営農技術の改善などによって、農業は町の主産業になりました。しかし昭和四〇年代に至り、高度経済成長の余波を受けて若年人口は都市へ流出し、その後も土地開発などから農家戸数、農地面積とも減少を続け、兼業化への移行が急速に進んできました（表―1）。

こうした中で石狩町およびJAは、水稲を主軸に、小麦・野菜類の輪作体系の確立と、各地区（花畔・生振・石狩）の特性に応じた適地・適作の農業経営を目指し、水稲、畑作、施設園芸、畜産の振興策を図ってきました。

近年は、道外市場においてニンジン・ダイコン・キヌサヤエンドウなどの野菜産地として銘柄確立を果たしました（表―2）。

◆石狩町の現在

昭和五七年八月に第一船を迎えた石狩湾新港は、内外貨物船の入

港が急増し活況を呈しています。また、後背地にあってその三分の一が公園・緑地となっている工業団地には、すでに六八〇社を超す企業が進出し、工業都市への表情も窺えます。さらに近年は一七〇万都市札幌のベッド・タウンとして大規模住宅団地の造成が相次ぎ、町の人口は五一、四九五人（平成六年四月一日現在）を擁しています。

◀稲の刈り取り

農業に目を転ずると「JAいしかり」は昭和六三年、花畔、生振、石狩の三農協合併後、九年目を迎えようとしていますが、本年四月三〇日『今日を活き、明日を創造するJAをめざして！』を合い言葉に、石狩北部五JA（いしかり、当別町、西当別、厚田村、はまます）の合併推進協議会が発足し、平成一〇年二月の合併実現を目指すことになりました。

石狩町は、古い歴史を礎にしながら新たな変革を着実に進めようとしており、恵まれた立地条件を生かした発展の期待が膨らんでおります。

（表－1）
石狩町農家戸数の推移　単位：戸

	総農家数	専業農家	1種兼業農家	2種兼業農家
1975	660	193	202	265
1980	594	207	171	216
1985	575	234	109	232
1990	516	174	147	195
1995	447	151	134	162

資料：農水省「農業センサス」

◆石狩町農業振興計画の策定

石狩町は、地区別に農業構造が異なっています。厚田村寄りの八幡・北生振を中心とする「石狩地区」は、純農村地区として畑作物や野菜類が作付けされ、今後も野菜の生産振興が期待される地区です。石狩川と茨戸川の中洲に展開する「生振地区」は、水稲と畑作が中心の地区となっております。石狩新港に隣接した「花畔地区」は、新港開発で立ち退いた農家が農住団地を形成し、メロン、キヌサヤエンドウ、ホウレンソウなどを栽培しています。

（表－2）石狩町主要農作物の作付面積推移　単位：ha

作物＼年		1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995
水稲		766	750	749	877	959	986	882
小麦		793	763	787	675	456	390	366
豆類		62	63	63	40	55	85	68
種子馬鈴しょ		25	25	25	24	22	21	21
食用馬鈴しょ		120	87	110	75	120	100	100
てん菜		7	7	7	7	12	2	2
飼料用作物		646	675	680	670	680	685	685
野菜類		354	359	380	386	386	324	323
野菜類内訳	ダイコン	68	95	95	100	100	120	120
	ニンジン	95	106	110	109	100	100	105
	ｻﾔｴﾝﾄﾞｳ	20	18	23	16	16	18	18
	カボチャ	35	25	25	15	12	11	10
	ｱｽﾊﾟﾗｶﾞｽ	22	25	25	25	15	20	18

資料：「石狩町農業委員会概要」1994年版

石狩町全体では、米プラス野菜を基軸とした生産体制を構築し、各地区の実態に即応した特徴ある地域農業振興計画の策定に着手しました。

◆石狩町農業の現状課題

平成七年九月、石狩町農家の意向を把握するため、JAいしかり組合員を対象にアンケート調査を実施しました（調査対象三五一戸、回収農家数二〇四戸、回収率五八・一％）。

その中から、石狩町農業の主たる現状課題を捉えると次の通りとなっております（参考表－3）。

①農業経営者の高齢化、後継者不足の顕在化。
②農地の流動化対策。
③農作業受委託の地域支援システム構築。
④新規就農者受入れ、後継者育成支援の地域組織構築。
⑤土づくり、土地改良。
⑥農産物の地元流通・消費対策。
⑦生産技術指導体制の強化。

◆石狩町農業が目指す将来像

石狩町は、大都市札幌に隣接する立地上の様々な要件や制約のなかで、将来とも「農業および農村環境を維持する重要性」を積極的に果たしていく役割を担っています。

石狩町農業振興計画策定プロジェクトでは、「ゆとりある農家生活と活力ある都市近郊型農業」を目指すため、農家をはじめ地元関係者の意識改革を積極的に進めようとしています。幸い現地の検討会には若手農業者が多数参加し、積極的な意見が披瀝されました。

課題についてさらに分析、検討を重ね、「石狩町の農家と関係機関の今後における役割と連携はどうあるべきか」を最大テーマの一つに据え、土地・労働・資本の各側面を有機的に連携させ得る組織体としての「農業総合支援システム」の構築を図るべく、現在検討を進めております。

◎石狩町は、平成八年九月一日から道内三四番目の「石狩市」となります。

〔レポーター　専任研究員　前田　信義〕

▼にんじんの収穫

◀地域の課題を話し合う

（表－３）石狩町農業の緊急に改善すべき課題
（経営形態別組合員の回答件数：複数）

項目＼形態	稲作	畑作	野菜	酪農	合計
経営規模拡大	15	13			28
農地分散整理	11	9			20
区画・暗きょの実施	33	31			64
機械・施設更新	21	16	5		42
土づくり・地力維持	21	33	87		141
労働力の確保	7	14	27		48
基本技術向上	3	8	37	13	61
コスト低減	28	22			50
等級・品質向上	36	24	27		87
反収向上	24	29			53
肥料農薬施用技術		8			8
販売方法の確立		19			19
輪作体系の改善		33	28		61
特栽米の拡大	5				5
集出荷施設の拡充			7		7
良質苗・種子確保			11		11
労働時間短縮			5		5
糞尿処理				3	3
良質粗飼料確保				4	4
回答数の合計	204	259	234	20	717

「石狩町農家アンケート調査結果」より作成